

平

三年

画数 5
筆順

一 二 三 平
ヘイ・ピョウ
たい いら・ひら

成り立ち



↓ 華 ↓ 平 ↓ 平 ↓ 平 ↓ 平

水の上に「平たく」ういている「華(うきくさ)」の形をあらわした字で、「華」のものと字です。うき草のひょうめんが「平ら」なので、「平」の字が「平ら」というひの字としてつかわれるようになりました。それで、「うき草」をあらわすために「平」に「艹」をくわえて「華」という字を作りました。

「ヘイは漢音、ピョウは呉音である。この音の字には「丙」「病」「兵」「鉞」「並」「評」など多くある。ただし、「鉞」や「評」などが漢音で読まれることはまずないし、「並」や「丙」が呉音で読まれることはない。」

返

三年

画数 7
筆順

一 厂 反 返 返
オン ヘン
フン かえりる ひとす

成り立ち



↓ 手 ↓ 返 ↓ 返 ↓ 返

「手のひらを「かえす」といういみで、「反対」のいみをあらわした「反」と、「道を歩いて行く」ことをあらわした「返」とを組み合わせて作った字です。

「今まで歩いてきたのと「反対」のほうこうに歩いて行く」ことをあらわした字です。「かえる」ことです。行って「かえる」ことですから「ひきかえす」ことでもあります。

今では「道を「ひきかえす」ことから「本を「かえす」というばあいにもつかいます。」

使い方

▽列車はトンネルの多い山をぬけて平野に出ました。どこまでも平地がつづいていました。

▽うんどう会といっても、平年とちがい、五十回めですから、平常どおりというわけにも行かないということです。

熟語例

▽平野(平らな広い野原。海に近い、ひくくて平らなのを「平野」、海からはなれた、高くて平らなのを、「平原」といいます。)

▽平地(平らな土地。平野や平原は、平地のとくに広いものです。)

▽平年(平は「ふつう」のいみ。いつもの年。うるう年にたいして、そうでない年のいみにもつかいます。)

▽平常(平も常も「ふつう」のいみ。「いつもの」といういみ)

▽平気(気もちがおちついていてどうしようしないこと。気にならないこと。また「さしつかえない」といういみにもつかいます。)

▽平等(高いひくいがないこと。高さが等しいこと。)

使い方

▽山田くんの家へあそびに行こうとしたのですが、はじめてなので、道をまちがえてしまいました。そこで引き返して、こうばんでおまわりさんに、道をききました。

▽いもうとから、百円お金をかりました。返すのをわすれていたたら、いもうとからさいそくされてしまいました。

熟語例

▽返事(こたえ。こたえることばや手紙のこと。「いつもんされたら、元氣よく返事をしましょう」などというふうにつかいます。)

▽返却(かりたものを、もちぬしに返すこと。「図書館の本を返して「返却済み」のはんをもらった」などというふうにつかいます。)

▽返礼(「お返し」の礼。また、礼ばかりでなく、いっばんに、されたことにたいして、お返しをすること。「たんじょう日に、時計をプレゼントされた返礼に、ブローチをおくった」などというふうにつかいます。)